

冬どりキャベツの有機栽培に適した品種					
[要約] 冬どりキャベツの有機栽培で、可販品収量が高い品種 ‘彩風’、‘冬藍’、‘YR 冬武者’、‘彩音’ および ‘耐寒大御所’ を利用することで、12 月から 3 月までの安定供給が可能となる。					
佐賀県農業試験研究センター 有機・環境農業部・有機農業研究担当				連絡先	0952-45-8808 nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp
部会名	野菜	専門	栽培	対象	キャベツ

[背景・ねらい]

有機栽培の冬どりキャベツは、有機栽培技術が不十分なため、県内ではほとんど作付されていない。そこで、野菜の有機栽培の振興を図るために、ここでは害虫の被害が少なく、安定した収量が得られる冬どりキャベツの有機栽培に適した品種を選定する。

[成果の内容]

- 冬どりキャベツの有機栽培でチョウ目やアブラムシ類の被害が少なく、可販品収量が高い品種は、9月上旬定植では‘彩風’と‘冬藍’で、9月中旬定植では‘YR 冬武者’、‘彩音’および‘耐寒大御所’である(表1)。これら品種を組み合わせることで12月から3月までの安定供給が可能となる(図1)。
- 9月上旬定植では、アブラムシ寄生頭数が多い品種は地上部重が軽い(図2)。アブラムシ寄生頭数が少ない品種は、9月上旬定植では‘冬藍’と‘あまかぜ’で、9月中旬定植では‘彩音’である(図3)。
- チョウ目幼虫が少なくかつ結球部のチョウ目被害度が低い品種は、9月上旬定植では‘冬藍’で、9月中旬定植では‘YR 冬武者’、‘彩音’および‘夢舞台’である(図3、表1)。

[成果の活用面・留意点]

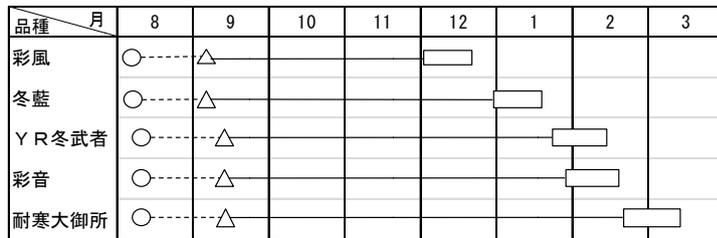
- 9月上旬定植は12~1月上旬頃、9月中旬定植は1月下旬~3月上旬頃の収穫である。
- キャベツの有機栽培方法の詳細は、平成26年度佐賀県成果情報を参照する。
- 本試験は水田で実施し、BT剤を2回施用した条件で得られた成果である。
- 本試験では、佐賀県内で主に普及している品種を供試した。

[具体的なデータ]

表 1. キャベツ品種の違いが収量および品質等に及ぼす影響(2012～2014年の3カ年平均)

定植時期	収穫時期	品種名	平均収穫日	結球重 (g)	球高/球径	可販比率 (%)	可販収量 (kg/10a)	結球部チョウ目類被害度	Brix値 (%)
9月上旬	12月	あまかぜ	12月8日	868	0.8	73	2,256	15.4	9.3
		彩風	12月11日	892	0.6	87	3,053	10.4	9.0
		恋風	12月15日	580	0.7	86	1,981	2.5	9.7
		松波	12月23日	728	0.8	78	2,389	8.3	10.6
		冬藍	1月6日	972	0.7	82	3,248	5.0	9.4
9月中旬	1月	YR冬武者	2月7日	727	0.7	91	2,614	1.7	10.1
		彩音	2月8日	688	0.7	86	2,400	2.1	10.0
		夢舞台	2月10日	633	0.7	87	2,180	1.7	9.6
		耐寒大御所	2月28日	974	0.6	91	3,609	1.3	9.5

1) 播種は8月8日、定植は9月5日と9月12～14日に実施し、栽植様式は畦幅1.5m、株間33cm、2条植えとした。2) 土づくりとして牛糞堆肥2t/10aと有機質石灰150kg/10aを施用した。10a当たり基肥施用量はグリーンアニマル725を186kg、グアノGを48kg、FTE1号を4kgを8月上旬に施用した後、定植までの約1ヶ月間太陽熱処理を実施した。追肥は定植2週間と結球期にグリーンアニマル725を71kg/10aずつ施用した。3) チョウ目類被害度は0～4の5段階評価とし、(1A+2B+3C+4D)/4N×100で求めた。A、B、C、Dは被害程度調査基準による各被害株数でN=10である。4) 害虫被害による収穫皆無を避けるために、BT剤（エスマルクDF水和剤またはゼンターリ顆粒水和剤）を10月上旬と10月末頃に散布した。



注) ○ : 播種 Δ : 定植 □ : 収穫

図 1 キャベツの有機栽培に適する品種と作型

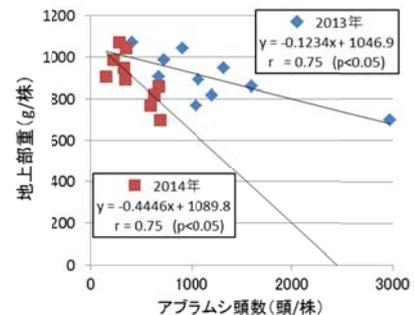


図 2 アブラムシ類寄生頭数と地上部重との関係

注) n=10(9月上旬定植5品種×2反復)

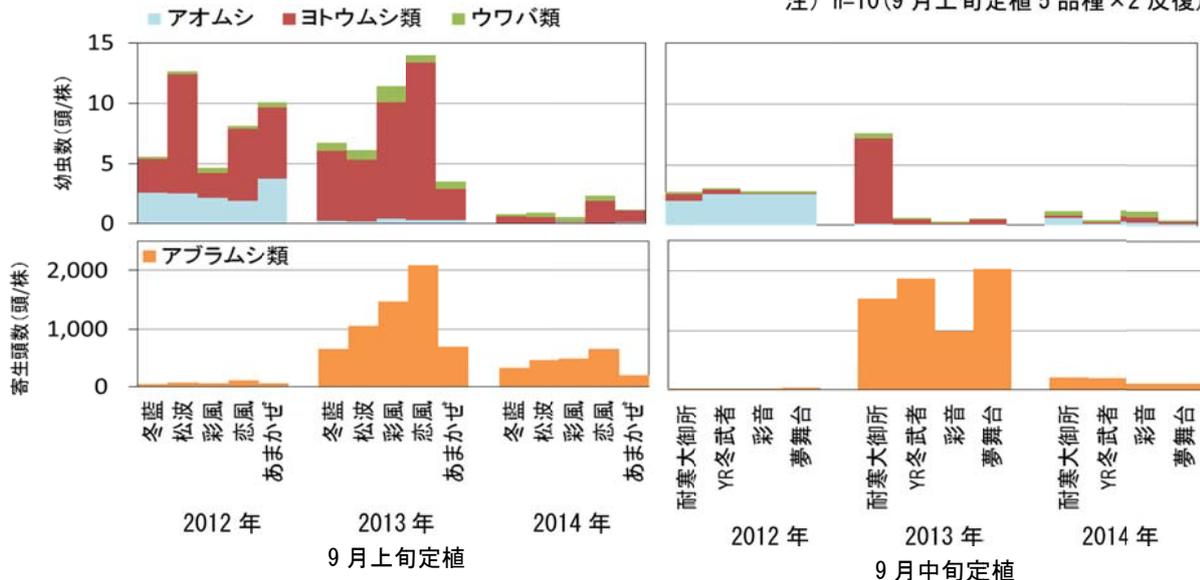


図 3 キャベツ品種の違いがチョウ目害虫とアブラムシ類の発生に及ぼす影響

注) 耕種概要は表 1 と同じ。虫数は 10 月中下旬に調査した。

[その他]

研究課題名：アブラナ科野菜を中心とした有機栽培技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2012年～2014年度

研究担当者：森 則子、中山敏文、國枝栄二、谷口宏樹